

2. 流域及び河川の自然環境

2.1 流域の自然環境

仁淀川の源流から筏津ダムまでの上流域は、石鎚山をはじめとする急峻な山地からなり、豊かな自然環境や渓谷美に恵まれている。中流域は、越知町等でわずかに平地が開けるほかは、山地で構成される地域であり、蛇行する水面と河原、山の緑が織りなす景観が美しいところである。下流域は、水量豊かで透明度が高く、高知市近傍に位置し利便性が高く、夏季を中心にキャンプ等を楽しむ利用者が四国内外から集まる親水スポットとなっている。

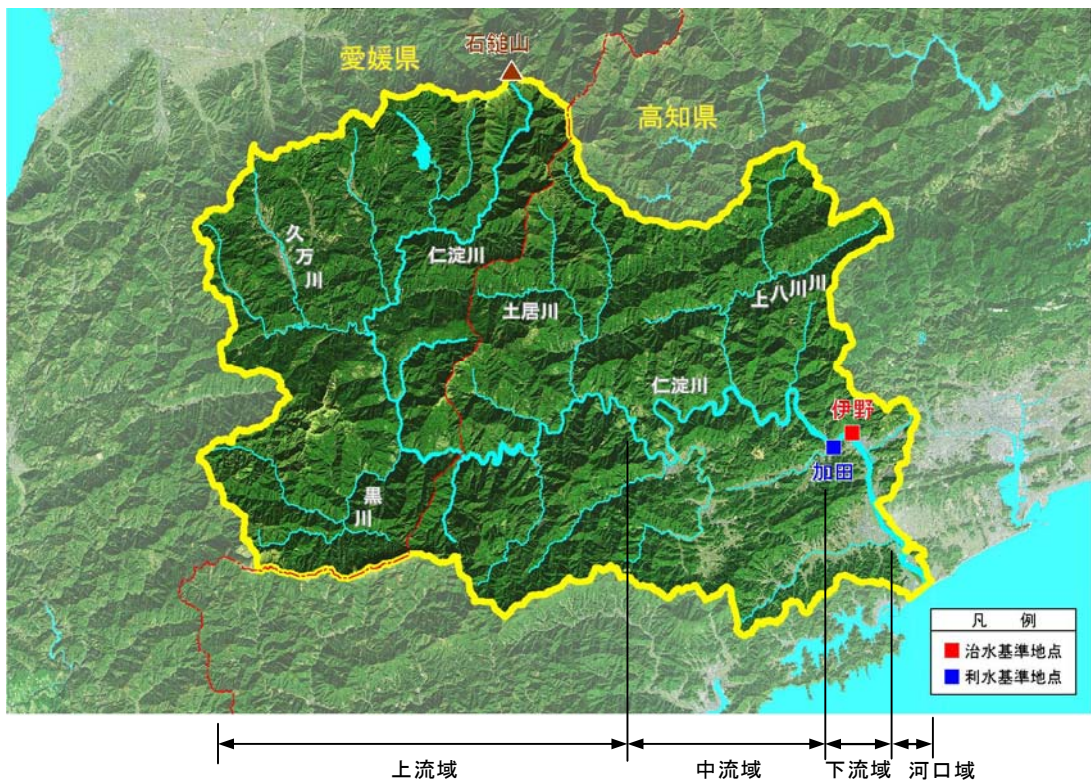
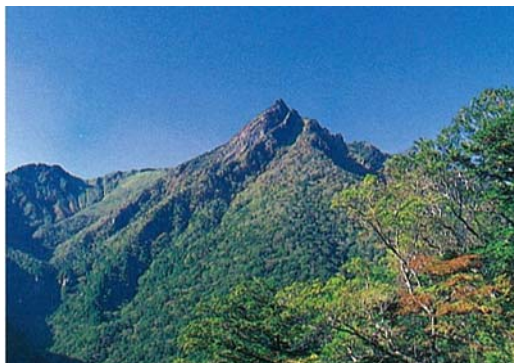


図 2-1 仁淀川流域



仁淀川の源流（石鎚山）



仁淀川の河口

2.1.1 上流域（源流～筏津ダム 50.0k）

上流域は、四国最高峰の石鎚山をはじめとする山地が織り成す山岳と溪谷の眺望が、極めて雄大であり、豊かな自然環境に恵まれている。また、石鎚国定公園、四国カルスト県立自然公園等に指定され、沿川には面河溪谷、中津溪谷等の景勝地も存在する。

上流域の森林は、大半がスギ・ヒノキ植林であるが、一部にブナ等の自然林が残されている。



2.1.2 中流域（筏津ダム 50.0k～加田付近 14.4k）

中流域は、越知町等でわずかに平地が開けるほかは、山地で構成される地域であり、「鎌井谷の沈下橋」付近等、蛇行する水面と河原、山の緑が織りなす景観が美しく、付近には日本の滝100選に選定された「大樽の滝」等の景勝地がある。

中流域は、常緑広葉樹のシイ・カシ萌芽林が、広い範囲で残存している。



2.1.3 下流域（加田付近 14.4k～汽水域上流端 3.0k）

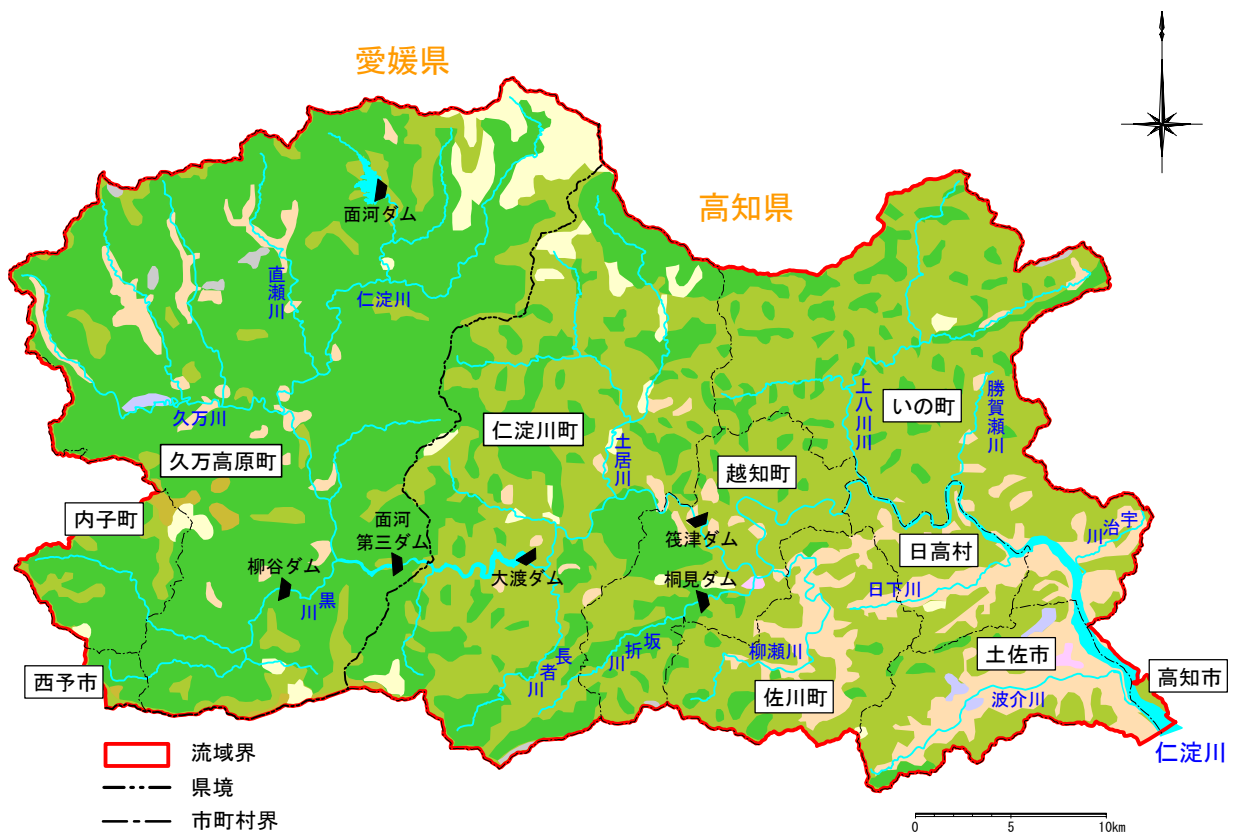
下流域は、帯状に分布した河畔林があり、砂州が発達し、瀬・淵が連続して出現する。良好な瀬は、アユの産卵場となっている。いの町波川、加田等の砂州は、キャンプ等を楽しむ利用者が四国内外から集まる親水スポットとなっている。



2.1.4 河口域（汽水域上流端 3.0k～河口 0.0k）

河口域は、右岸部の耕作地跡に河畔林が広がっており、砂州やワンド状の干潟が形成されている。河口部には、波浪の影響などにより河口砂州が発達している。また、河口右岸の土佐市新居地区では、キュウリ、ナス、ピーマン等の促成栽培やハウス農園等が盛んである。





自然度	自然度区分の基準
9~10	高山ハイデ、風衝草原、自然草原のうち単層の植物社会を形成する
	エゾマツ・トドマツ群集、ブナ群集のうち多層の植物社会を形成する
7~8	ブナ・ミズナラ再生林、シイ・カシ萌芽林。代償植生でも特に自然に近いもの
	クリ・ミズナラ群集、クヌギ・コナラ群落。二次林と呼ばれる代償植生地区
6	常緑・落葉針葉樹、常緑広葉樹等の緑林地
5	ササ・ススキ群落等背丈の高い草原
4	シバ群落等背丈の低い草原
3	果樹園、桑畑、茶畑、苗圃等の樹園地
2	水田、畑地等の耕作地、緑の多い住宅地
1	植生のほとんど残っていない市街地、造成地等

出典：日本植生誌 四国（S57 宮脇 昭）

図 2-2 仁淀川流域の植生

2.2 河川の自然環境

2.2.1 上流域

上流域の森林には、ニホンザルやイノシシ等の哺乳類が生息している。V字谷となっている溪流部には、幼虫期にエノキを食草とし雑木林に生息するオオムラサキ、幼虫期の5～8年を水中で過ごし水際の植物の茎部やコケ類に産卵するムカシトンボ等の昆虫類、魚食性のヤマセミや水生昆虫食のカワガラス等の鳥類、上流の冷水域を好むアマゴ、タカハヤ等の魚類等清冽な溪流を代表する生物が生息している。

また、源流付近には、森林と水域を移動するブチサンショウウオやオオダイガハラサンショウウオ、国の特別天然記念物であり一生を水中で過ごすオオサンショウウオなどサンショウウオ類の両生類が生息している。

上流域には大渡^{おおど}ダムがあり、ダム湖は広い開放水面となっており、緩やかな流れを好むギンブナ、カワムツの他、オイカワ、ウグイなどが生息し、オシドリの主要な越冬地にもなっている。ダム湖の上下流ではアマゴ、アユ等は遊漁用に放流が行われている。



アマゴ



ヤマセミ



オオサンショウウオ



オオムラサキ

写真 2-1 仁淀川上流域の動植物

2.2.2 中流域

中流域の両岸には、水際部にツルヨシの群落が多くみられ、その外側にムクノキ、エノキ、ヤナギ類、竹林等の河畔林があり、常緑広葉樹であるシイ・カシ・萌芽林等からなる山林へと連続する環境が形成されている。

ヤナギ類の河畔林には、ヤナギ類が幼虫の食草であるコムラサキが生息する。河原にはカワラバッタが生息し、砂レキ地にはイカルチドリやヒバリが生息する。また、水域では、瀬や淵が連続する場所にアユ、ウグイ等の魚類が生息し、水面や水際は主に魚食性であるカイツブリ、カワウ、サギ類、カワセミ、水際を歩きながら昆虫等を採餌するセキレイ類等鳥類の採餌環境となっている。



アユ



ツルヨシ



イカルチドリ



カワセミ

写真 2-2 仁淀川中流域の動植物

2.2.3 下流域

下流域には、河口から9 km付近に八田堰があり、その上流に湛水区域が形成されている。

八田堰上流の河道は、みお筋が大きく蛇行しつつ流れ、河岸の大半は、岩盤が露出した山付き斜面となっている。河川敷にはツルヨシの他、ネコヤナギ等の低木林、アカメヤナギ、エノキ等の高木林が生育している。河畔林の林冠・林縁・林床にはハグロトンボ、ヤナギルリハムシ等の昆虫類やエナガ、メジロ等の鳥類の生息できる多様な環境が存在し、その生息種類数も多い。

堰の湛水区域では、緩流部を好むマガモ、コガモ等の水鳥が多数越冬する。

堰の上流は純淡水魚が主体となるが、回遊魚も出現し、遡上範囲が相対的に狭いといわれるカマキリが確認されている。

八田堰の下流は、河道内に広い砂レキ地が形成されており、砂レキ地では自然裸地が目立ち、植生の占める面積は小さい。また、高水敷は、農地として利用されているところが多く、その河岸には、ハチクやマダケ等の竹林が帯状に連続している。さらに水際には、ヤナギタデ、ツルヨシ等が分布している。

砂レキ地は、イカルチドリやコアジサシ等の鳥類が繁殖地として利用するほか、カワラバッタ等の陸上昆虫類が生息する。また、高木林や竹林に隣接する水田はアマガエルやトノサマガエル等の両生類の産卵場所となり、それらカエル類を餌とするヒバカリ等の爬虫類も生息している。

また、水域は連続した瀬・淵環境が存在し、瀬はアユの産卵場になっている。レキ底を好むアカザやカマキリ等の魚類、チラカゲロウ、ヒゲナガカワトビケラ等の底生動物も生息している。

2.2.4 河口域

河口部は砂州、干潟、砂レキ地、草地、竹林、高木河畔林など多様な環境があり、河口から3 km付近までが感潮域となっている。

河口を閉塞するように発達した砂州にはハマヒルガオ等の海岸砂丘性群落が分布し、シギ・チドリ等の渡り鳥の中継地および採餌場になっている。干潟にはシオクグの塩沼湿地性群落が分布し、そこには、泥湿地に生育するタコノアシ等の植物、シオマネキ等の底生動物が生息している。また、仁淀川で新種と確認されたウミホソチビゴミムシが生息している。

水域は感潮域であり、ボラ、マハゼ等の河川と海域を行き来する汽水・海水魚、カワアナゴ、ボウズハゼ等の回遊魚が生息する。また、カモ類の越冬地、魚食性であるミサゴ等の採餌場となっている。



ヨシ原



タコノアシ



コアジサシ



ウミホソチビゴミムシ

写真 2-3 仁淀川下流域および河口域の動植物

2.2.5 仁淀川における重要種

既往の河川水辺の国勢調査等により確認された種のうち表 2-1 の文献によりその生息、生育が危惧されている種（重要種）は、以下のとおりである。

表 2-1 重要種の選定根拠文献

<ul style="list-style-type: none"> ・「文化財保護法」における国、都道府県、市町村指定の天然記念物 ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物および緊急指定種 ・環境省編「日本の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブック」の掲載種 (2000：植物、両生類・爬虫類、2002：鳥類、哺乳類、2003：汽水・淡水魚、 2005：陸・淡水貝類、2006：クモ形類・甲殻類、昆虫類) ・環境省「改正レッドリスト」(2006：鳥類、両生類・爬虫類、その他無脊椎動物) ・環境省「改正レッドリスト」(2007：哺乳類、汽水魚類・淡水魚類、昆虫類、淡水産貝類、陸産貝類) ・高知県編「高知県の絶滅のおそれのある野生生物 高知県レッドデータブック(植物編)」 (2000) 高知県編「高知県の絶滅のおそれのある野生生物 高知県レッドデータブック(動物編)」 (2002)
--

表 2-2 既往調査でこれまでに確認された重要種

調査項目	河川水辺の国勢調査（ダム湖版含む）
底生動物	33
魚介類	39
植物	50
鳥類	60
両生類、爬虫類、哺乳類	4
陸上昆虫類等	78

〈備考：参考とした調査結果〉

- ・河川水辺の国勢調査：平成 3 年～平成 17 年
- ・河川水辺の国勢調査 ダム湖版（大渡ダム）：平成 3 年～平成 17 年
- ・シオクグ入り江部の生物要求条件調査：平成 18 年
- ・ウミホソチビゴミムシの分布調査：平成 18 年～平成 19 年

表2-3(1) 重要種一覧

●:最新調査において確認 ○:最新調査以前において確認

調査分類	No	科名	種名	特定種				仁淀川水系 確認状況
				天然 記念物	種の 保存法	環境省 RL	高知県 RDB	
底生動物調査	1	タニシ科	オオタニシ			NT		○
	2	トウガタカワニナ科(トゲカワニナ科)	タケノコカワニナ			VU		●
	3	モノアラガイ科	モノアラガイ			NT		●
	4	ヒラマキガイ科 (+インドヒラマキガイ科)	ヒラマキミズマイマイ			DD		●
	5	シジミ科	ヤマトシジミ			NT		●
	6		マシジミ			NT		●
	7	イワガニ科	トゲアシヒライソガニモドキ				県DD	●
	8	スナガニ科	カウスナガニ			NT	県NT	●
	9		シオマネキ			VU	県CR	●
	10	チラカゲロウ科	チラカゲロウ				県NT	●
	11	イトトンボ科	セスジイトトンボ				県EN	○
	12		オオイトトンボ				県NT	●
	13		アジアイトトンボ				県NT	●
	14	モノサシトンボ科	モノサシトンボ				県NT	○
	15	ムカシトンボ科	ムカシトンボ				県NT	●
	16	ヤンマ科	ギンヤンマ				県NT	●
	17		コシボソヤンマ				県VU	●
	18	サナエトンボ科	ミヤマサナエ				県NT	●
	19		キイロサナエ				県NT	●
	20		ヒメクロサナエ				県NT	●
	21		アオサナエ				県NT	○
	22		ヒメサナエ				県NT	●
	23		オジロサナエ				県NT	●
	24	カワゲラ科	ヒメオオヤマカワゲラ				県NT	●
	25	タイコウチ科	ヒメミズカマキリ				県EN	●
	26	ヘビトンボ科	タイリククロスジヘビトンボ				県NT	●
	27		ヤマトクロスジヘビトンボ				県NT	●
	28	センブリ科	ヤマトセンブリ			DD		○
	29	ムネカクトビケラ科	ムネカクトビケラ				県DD	○
	30	ゲンゴロウ科	チャイロマメゲンゴロウ				県VU	○
	31	ミズスマシ科	ツマキレオナガミズスマシ			NT		○
	32	ガムシ科	コガムシ				県DD	○
	33		コガタガムシ				県DD	○
魚介類調査	1	ヤツメウナギ科	スナヤツメ			VU	県CR	●
	2	ウナギ科	ウナギ			DD		●
	3	コイ科	ゲンゴロウブナ			EN		●
	4		オオキンブナ				県DD	●
	5		ヤリタナゴ			NT	県EN	●
	6		シロヒレタビラ			EN		○
	7		イチモンジタナゴ			CR		○
	8		ワタカ			EN		●
	9		ハス			VU		○
	10		モツゴ				県VU	●
	11	ドジョウ科	ヒナイシドジョウ			EN	県EN	●
	12		シマドジョウ				県VU	●
	13	アカザ科	アカザ			VU	県EN	●
	14	メダカ科	メダカ			VU	県NT	●
	15	カジカ科	カマキリ			VU	県VU	●
	16	クロホシマンジュウダイ科	クロホシマンジュウダイ				県NT	●
	17	ボラ科	アンピンボラ			DD		○
	18		コボラ				県DD	○
	19		ナンヨウボラ				県DD	○
	20	ハゼ科	カワアナゴ				県NT	●
	21		チチブモドキ				県NT	●
	22		トビハゼ			NT	県VU	●
	23		チワラスボ			EN	県CR	●
	24		ボウズハゼ				県NT	●
	25		イドミズハゼ			NT	県EN	●
	26		ヒモハゼ			NT	県EN	●
	27		タネハゼ				県EN	●
	28		スミウキゴリ				県NT	●
	29		アシシロハゼ				県EN	●
	30		<i>Acentrogobius</i> 属の一種				県DD	○
	31		チチブ				県NT	○
32	タニシ科	オオタニシ			NT		●	
33		ナガタニシ			NT		○	
34	トウガタカワニナ科	タケノコカワニナ			VU		●	
35	モノアラガイ科	モノアラガイ			NT		○	
36	シジミ科	ヤマトシジミ			NT		○	
37		マシジミ			NT		●	
38	スナガニ科	カウスナガニ			NT	県NT	●	
39	イワガニ科	トゲアシヒライソガニモドキ				県DD	●	
植物調査	1	ミズウラボシ科	ヒメウラボシ			VU	県NT	○
	2	チャセンシダ科	ハヤマシダ				県EN	○
	3	ヤナギ科	カワヤナギ				県VU	○
	4	ウマノスズクサ科	ウマノスズクサ				県VU	○
	5		ナンカイアオイ			VU	県NT	○
	6	ベンケイソウ科	ツメレンゲ			NT	県NT	●
	7	ユキノシタ科	タコノアシ			NT	県NT	●
	8		ヤブサンザシ				県CR	○
	9	ミソハギ科	ミズマツバ			VU		●

表2-3(2) 重要種一覧

●:最新調査において確認 ○:最新調査以前において確認

調査分類	No	科名	種名	特定種				仁淀川水系 確認状況	
				天然 記念物	種の 保存法	環境省 RL	高知県 RDB		
植物調査	10	クロウメモドキ科	ケンボナシ				県EN	○	
	11	アオギリ科	ノジアオイ				県NT	○	
	12	セリ科	ヒメノダケ				県EN	○	
	13		イヌトウキ				県NT	●	
	14		シャク				県CR	○	
	15	ガガイモ科	イケマ				県VU	○	
	16		コカモメツル				県VU	○	
	17	シン科	ミズネコノオ			NT	県NT	●	
	18		レモンエゴマ				県NT	●	
	19		ミゾコウジュ			NT	県VU	●	
	20	ゴマノハグサ科	カワヂシャ			NT	県NT	○	
	21		スズメハコベ			VU		●	
	22	イワタバコ科	イワギリソウ			VU	県EN	●	
	23	キキョウ科	ツルギキョウ			VU	県CR	○	
	24		バアソブ			VU	県CR	○	
	25	キク科	イズハハコ			VU	県NT	○	
	26		フジバカマ			NT	県CR	●	
	27		トサトウヒレン			VU	県EN	○	
	28	ヒルムシロ科	リュウノヒゲモ			NT	県VU	○	
	29	ユリ科	ササユリ				県CR	○	
	30	アヤメ科	カキツバタ			NT		○	
	31	イグサ科	ホソイ				県DD	○	
	32	イネ科	イヌアワ				県EN	●	
	33	サトイモ科	マイヅルテンナンショウ			VU	県EX	○	
	34		ユキモチソウ			VU	県VU	○	
	35		ナンゴクウラシマソウ				県EN	○	
	36	カヤツリグサ科	シバスゲ				県VU	○	
	37		センダイスゲ				県EN	○	
	38		タシロスゲ				県CR	○	
	39		トサノハマスゲ			EN	県CR	○	
	40		クロテンツキ				県EN	●	
	41		マツカサススキ				県NT	○	
	42		エゾウキヤガラ				県NT	●	
	43		アブラガヤ				県NT	○	
	44	ラン科	シラン			NT	県VU	●	
	45		ムギラン			NT	県VU	○	
	46		エビネ			NT	県CR	●	
	47		キンラン			VU	県VU	○	
	48		クマガイソウ			VU	県CR	○	
	49		セイタカスズムシソウ				県EN	○	
	50		ムカデラン			VU	県EN	○	
	鳥類調査	1	サギ科	ミゾゴイ			EN	県VU	○
		2		ササゴイ				県NT	●
		3		チュウサギ			NT	県NT	●
		4	カモ科	オシドリ			DD	県NT	●
		5		ヨシガモ				県VU	●
		6		オナガガモ				県VU	●
		7		ハシビロガモ				県VU	○
		8	タカ科	ミサゴ			NT	県EN	●
		9		ハチクマ			NT	県EN	○
10			オオタカ		希少	NT	県CR	●	
11			ツミ				県CR	●	
12			ハイタカ			NT	県VU	●	
13			ノスリ				県VU	●	
14			サシバ			VU	県VU	○	
15			クマタカ		希少	EN	県CR	●	
16			チュウヒ			EN	県EN	●	
17		ハヤブサ科	ハヤブサ		希少	VU	県CR	●	
18			チゴハヤブサ				県NT	○	
19		キジ科	ウズラ			NT	県EN	●	
20			ヤマドリ				県DD	○	
21		ツル科	ナベヅル			VU	県CR	●	
22		クイナ科	クイナ				県EN	●	
23			ヒクイナ			VU		●	
24		チドリ科	ダイゼン				県VU	●	
25		シギ科	ハマシギ				県NT	●	
26			チュウシャクシギ				県NT	●	
27		カモメ科	ハジロクロハラアジサシ				県NT	○	
28			コアジサシ			VU	県EN	●	
29		カッコウ科	ジュウイチ				県NT	●	
30			カッコウ				県NT	●	
31		フクロウ科	アオバズク				県NT	●	
32			フクロウ				県NT	●	
33		ヨタカ科	ヨタカ			VU	県VU	○	
34		カワセミ科	ヤマセミ				県NT	●	
35			アカショウビン				県NT	●	
36			カワセミ				県NT	●	
37		サンショウクイ科	サンショウクイ			VU	県CR	●	
38		ブッポウソウ科	ブッポウソウ			EN	県VU	○	

表2-3(3) 重要種一覧

●:最新調査において確認 ○:最新調査以前において確認

調査分類	No	科名	種名	特定種				仁淀川水系 確認状況
				天然 記念物	種の 保存法	環境省 RL	高知県 RDB	
鳥類調査	39	ヤイロチヨウ科	ヤイロチヨウ			EN	県CR	●
	40	ツバメ科	コシアカツバメ				県NT	●
	41	セキレイ科	ビンズイ				県DD	●
	42	ツグミ科	コルリ				県VU	○
	43		ルリビタキ				県DD	●
	44		トラツグミ				県NT	●
	45		クロツグミ				県NT	●
	46	ウグイス科	オオヨシキリ				県NT	●
	47		メボソムシクイ				県NT	○
	48		エゾムシクイ				県NT	○
	49	ヒタキ科	キビタキ				県NT	●
	50		オオルリ				県NT	●
	51		コサメビタキ				県DD	○
	52	カササギヒタキ科	サンコウチョウ				県NT	●
	53	ツリスガラ科	ツリスガラ				県NT	○
	54	ホオヅロ科	ホオアカ				県VU	●
	55		カシラダカ				県NT	●
	56		ノジコ			NT	県DD	●
	57		アオジ				県DD	●
	58		クロジ				県NT	●
59		オオジュリン				県NT	●	
60	アトリ科	イカル				県VU	●	
哺乳類 爬虫類 両生類 調査	1	アカガエル科	トノサマガエル				県NT	●
	2	ヘビ科	ジムグリ				県DD	●
	3		ヒバカリ				県NT	●
	4	リス科	ニホンリス				県NT	●
陸上昆虫 等調査	1	トタテグモ科	キノボリトタテグモ			NT		○
	2	チラカゲロウ科	チラカゲロウ				県NT	●
	3	イトトンボ科	セスジイトトンボ				県EN	○
	4		ムスジイトトンボ				県EN	○
	5		オオイトトンボ				県NT	○
	6		アジイトトンボ				県NT	○
	7	モノサシトンボ科	モノサシトンボ				県NT	○
	8	ムカシトンボ科	ムカシトンボ				県NT	●
	9	ヤンマ科	ネアカヨシヤンマ			NT	県NT	○
	10		マルタンヤンマ				県NT	●
	11		クロスジギンヤンマ				県NT	●
	12		ギンヤンマ				県NT	●
	13		カトリヤンマ				県NT	●
	14	サナエトンボ科	キイロサナエ				県NT	○
	15		アオサナエ				県NT	○
	16		オジロサナエ				県NT	○
	17	エゾトンボ科	トラフトンボ				県EN	●
	18		タカネトンボ				県NT	●
	19	クツワムシ科	クツワムシ				県NT	●
	20	キリギリス科	カヤキリ				県NT	○
	21	バッタ科	カワラバッタ				県NT	●
	22		ショウリョウバッタモドキ				県NT	●
	23		イナゴモドキ				県NT	○
	24	セミ科	ハルゼミ				県NT	●
	25	ハナカメムシ科	ズイムシハナカメムシ			VU		●
	26	カメムシ科	シコクチフトカメムシ				県DD	○
	27		タマカメムシ				県NT	●
	28	ヘビトンボ科	タイリククロスジヘビトンボ				県NT	●
	29		ヤマトクロスジヘビトンボ				県NT	○
	30	ヒロバカゲロウ科	ブライヤーヒロバカゲロウ				県NT	○
	31	ケカゲロウ科	ケカゲロウ				県NT	●
	32	ウスバカゲロウ科	コカスリウスバカゲロウ				県VU	●
	33	シリアゲムシ科	ブライヤシリアゲ				県NT	○
	34	ナガレトビケラ科	オオナガレトビケラ			NT	県NT	●
	35	トビケラ科	ムラサキトビケラ				県NT	○
	36	セセリチョウ科	オオチャバナセセリ				県CR	○
	37	タテハチョウ科	メスグロヒョウモン				県NT	○
	38		クモガタヒョウモン				県NT	○
	39		オオムラサキ			NT	県NT	●
	40	シロチョウ科	ツマグロキチョウ			VU		○
	41	ヤガ科	ウスイロキシタバ				県DD	●
	42	ムシヒキアブ科	オオイシアブ				県NT	●
	43	オサムシ科	ヨツボシツヤナゴミムシ				県NT	○
	44		ヒメセボシヒラタゴミムシ				県NT	○
	45		キアシマルガタゴミムシ				県DD	●
	46		フタモンクビナゴミムシ				県DD	●
	47		クロズカタキバゴミムシ				県DD	●
	48		アオミズギワゴミムシ				県DD	●
	49		コキベリアオゴミムシ				県DD	○
	50		クロヒゲアオゴミムシ				県NT	○
	51		オオヨツボシゴミムシ				県DD	○
	52		アオヘリホソゴミムシ				県NT	●
	53		オオキベリアオゴミムシ				県DD	●
	54		ベーツヒラタゴミムシ				県DD	○
	55		チャバナクビナゴミムシ				県NT	●
	56		オオヨツアナアトキリゴミムシ				県DD	○
	57		ダイミョウツブゴミムシ				県DD	●
	58		クワツブゴミムシ				県DD	○

表2-3(4) 重要種一覧

●:最新調査において確認 ○:最新調査以前において確認

調査分類	No	科名	種名	特定種				仁淀川水系 確認状況	
				天然 記念物	種の 保存法	環境省 RL	高知県 RDB		
陸上昆虫類等調査	59	オサムシ科	クロズホナシゴミムシ				県DD	●	
	60		ウミホソチビゴミムシ			NT	県CR	●	
	61		ウミミズギワゴミムシ				県NT	●	
	62		カラカネゴモクムシ				県DD	○	
	63		コホソナガゴミムシ				県DD	●	
	64		イツホシマメゴモクムシ				県DD	○	
	65		コアオアトキリゴミムシ				県DD	○	
	66		オオクロツヤゴモクムシ				県DD	●	
	67		クピアカツヤゴモクムシ				県DD	○	
	68		キュウシュウツヤゴモクムシ				県DD	●	
	69		ムラサキオオゴミムシ				県DD	○	
	70		ハンミョウ科	コハンミョウ				県NT	●
	71		ゲンゴロウ科	ホソセスジゲンゴロウ				県NT	●
	72		クワガタムシ科	ヒラタクワガタ				県NT	○
	73			チビクワガタ				県NT	●
	74		コガネムシ科	ヒゲコガネ				県NT	●
	75		テントウムシ科	オオテントウ				県NT	●
	76		カミキリムシ科	クワカミキリ				県NT	○
	77			タキグチモモプトホソカミキリ				県NT	●
78		エゾナガヒゲカミキリ				県DD	●		

<p>〈重要種凡例一覧〉</p> <p>【天然記念物】 「文化財保護法」(昭和25年法律第214号) 特天:特別天然記念物 天:天然記念物</p> <p>【種の保存法】 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律75号) 希少:国内希少野生動植物種 緊急:緊急指定種</p> <p>【環境省RDB】 「日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック」(環境省、2000~2006) 「改正レッドリスト(鳥類、両生類・爬虫類、その他無脊椎動物)」(環境省2006) 「改正レッドリスト(哺乳類、汽水魚類・淡水魚類、昆虫類、淡水産貝類、陸産貝類)」(環境省2007) EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 I A類 EN:絶滅危惧IB類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:地域個体群</p> <p>【高知県RDB】 「高知県の絶滅のおそれのある野生生物 高知県レッドデータブック(植物編)、(動物編)」(高知県文化環境部環境保全課) 県EX:絶滅 県EW:野生絶滅県 県CR:絶滅危惧IA類 県EN:絶滅危惧IB類 県VU:絶滅危惧II類 県NT:準絶滅危惧 県DD:情報不足</p>

2.2.6 仁淀川の河川環境を指標する種(「指標種」)

河川水辺の国勢調査等の調査結果をもとに、河川環境と関連性があり、その環境区分に生息・生育する代表的なものを以下の条件により抽出した。

1) 上位性

仁淀川流域に生息・生育する生物の食物連鎖において、より高次の捕食者である猛禽類や魚食性の鳥類、雑食性の哺乳類等が該当する。これらの種の存在は、多様で豊かな自然を指標すると考えられる。

2) 典型性

仁淀川の特徴づける河川環境に依存する動植物であり、それらの種の保全を追求する事で仁淀川における河川環境の保全が可能にあると想定される種が該当する。選定にあたっては、仁淀川に本来生息・生育していると想定され、かつ以下の2つの条件を満たす種とした。

・典型性1

仁淀川に多く生息・生育しており(調査確認種数が多い、群落面積が広い、分布範囲が広い等)、かつ仁淀川を特徴づける河川環境に依存している種。

・典型性2

仁淀川での生息・生育状況は少ない(調査確認種数が少ない、群落を形成しない、分布範囲が限られる等)が、仁淀川を特徴づける河川環境に強く依存する種。

3) 移動性

河川と海域を行き来する回遊性の魚類やカニ類等が該当する。これらの種の存在は、仁淀川における河川の連続性(上下流の連続性、支川と本川との連続性等)を指標すると考えられる。

生物種のデータは、下流域は「仁淀川水系河川水辺の国勢調査」を、中流域は「土佐の自然」(高知県文化環境部環境保全課編集)を、上流域は「大渡ダム河川水辺の国勢調査」を参考とした。

表 2-4(1) 仁淀川の河川環境を指標する種（陸域）

環境区分	群落	主な植物	注目種	
河口・下流域	自然裸地		ミゾコウジュ イカルチドリ コアジサシ カワラバッタ コカスリウスバカゲロウ	
	海岸砂丘草原	ハマヒルガオ群落 ハマエンドウ群落	ハマヒルガオ ハマエンドウ ハマゴウ	コチドリ
	湿性低茎草原	ヤナギタデ群落	ヤナギタデ	タコノアシ カワヂシャ サギ類 イトトンボ類
	湿性高茎草	ツルヨシ群集 オギ群落	ツルヨシ オギ	オオジュリン オオヨシキリ タヌキ ジュウサンホシテントウ ババヒメテントウ
	適潤～乾性低茎草原	コセンダングサ群落 メヒシバ-エノコログサ群落	コセンダングサ メヒシバ アキノエノコログサ	レモンエゴマ トサノハマスゲ セッカ ビンズイ キアシマルガタゴミムシ アオヘリホソゴミムシ
	適潤～乾性高茎草原	ススキ群落	トダシバ	ホオジロ アオジ カヤネズミ チャバネセセリ
	低木林	ネコヤナギ群集 ノイバラ群落	ネコヤナギ ノイバラ	カワヤナギ ツグミ ヤナギルリハムシ
	高木河畔林	ジャヤナギ-アカメヤナギ群集 ムクノキ-エノキ群集	アカメヤナギ エノキ	ツルギキョウ タシロスゲ イヌアワ メジロ エナガ キジバト ハグロトンボ ヤマトタマムシ ヤナギルリハムシ
	植林	スギ・ヒノキ植林		チャバネアオカメムシ
	竹林	メダケ群落 キボウシノ群落 モウソウチク植林 マダケ植林 ホウライチク植林 ハチク植林 トウチク植林	メダケ ハチク	シヤク イヌアワ ウマノスズクサ マイヅルテンナンショウ エビネ クマガイソウ タヌキ ハイイロヤハズカミキリ
	農地・果樹園	果樹園 畑地 水田		ツグミ チュウサギ アマガエル トノサマガエル ホソハリカメムシ

注) 選定根拠：上位性、典型性1、典型性2、移動性

表 2-4(2) 仁淀川の河川環境を指標する種（陸域）

環境区分		群落	主な植物	注目種
中流域	植林地	スギ・ヒノキ植林	スギ ヒノキ	ヒヨドリ ホオジロ チャバネアオカメムシ
	植林地	スギ・ヒノキ植林	スギ ヒノキ	ヒヨドリ ホオジロ アナグマ チャバネアオカメムシ オオスジコガネ
上流域	広葉樹林	ツブラジイ-アラカシ群落	ツブラジイ アラカシ	ヒヨドリ アオジ ニホンリス ヒラタクワガタ タキグチモモフトホソカミ キリ

注) 選定根拠：上位性、典型性1、典型性2、移動性

表 2-5 仁淀川の河川環境を指標する種（水域）

環境区分		注目種	環境区分	注目種	
下流域	感潮域	干潟	淡水域	ワンド・よどみ	
		水域		ギンブナ メダカ モノアラガイ ギンヤンマ ホソセスジゲンゴロウ	
	淡水域	瀨		浮葉・沈水草原	コガモ バン イトトンボ類 ハグロトンボ カトリヤンマ
		淵、湛水域		連続する瀬淵	アユ オイカワ カワムツ ウグイ
		ダム湛水域		ダム湛水域	コイ ギンブナ オシドリ
		溪流		溪流	アマゴ タカハヤ ムカシトンボ ヤマトクロスジヘビトンボ ヤマセミ カワセミ カジカガエル オオサンショウウオ ブチサンショウウオ オオダイガハラサンショウウオ
上流域					

注) 選定根拠：上位性、典型性1、典型性2、移動性

2.3 特徴的な河川景観や文化財等

2.3.1 特徴的な河川景観

仁淀川の上流域では、日本三大カルストのひとつである四国カルストや、また、面河溪に代表される山地溪谷等の雄大な河川景観がみられ、中流域では、蛇行河川の水面と河原、沈下橋や砂州が織り成す山里の景観を呈しており、日本最古の地層を持つ横倉山や「日本の滝 100 選」に選ばれた大樽の滝がある。下流域では、農業用取水堰である八田堰や堤防に隣接する市街地が見られ、河道内では河畔林が帯状に分布しており、砂州が発達し、連続した瀬淵が出現する。

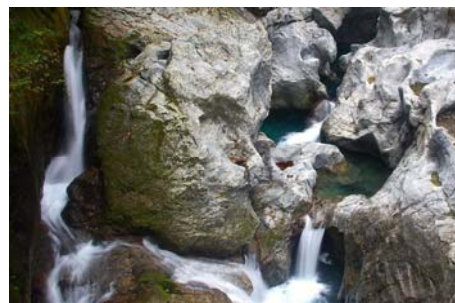
(1) 四国カルスト（仁淀川町、久万高原町、西予市）

日本三大カルストの一つ。地芳峠を中心に、東は天狗高原、西は大野ヶ原に至るカルスト地形で海拔1,200m～1,400mの標高を誇り、高原地帯特有の起伏に富んだ地形のなかに、奇岩が各所に見られる。県立自然公園に指定されている。



(2) 八釜の甌穴群（久万高原町）

黒川には国の天然記念物に指定されている八釜甌穴群がある。黒川の河床の堅いフリント質角岩の上に生じたもので、大小30余の甌穴が5列に並んでいる。



(3) 面河溪（久万高原町）

四国最大の溪谷美を誇る面河溪谷は、西日本最高峰の石鎚山の南麓に位置し、樹海・断崖・滝・奇岩など変化に富んだ景観や四季を通じての溪谷美が楽しめる。国の名勝に指定されている。



(4) 面河ダム公園（久万高原町）

面河ダム北岸周辺を8年かけて整備した公園。ダム湖に架かる四国一のつり橋である四季彩橋からの眺めは見事である。夏にはおもご納涼祭が開催される。



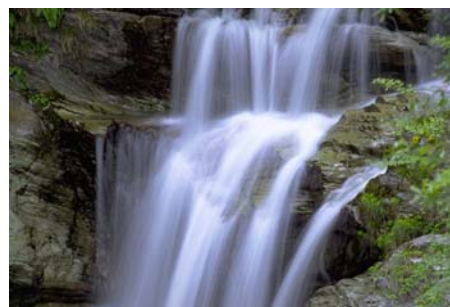
(5) 中津溪谷（仁淀川町）

中津溪谷県立自然公園は、昭和33年に山岳と溪谷の自然公園として指定されている。区域内には大山神社、寒草城跡かんそうじょうなどの旧跡もあり、明神山山頂みょうじんからは太平洋と瀬戸内海を遠望し、眺望は極めて雄大である。



(6) 安居溪谷（仁淀川町）

安居溪谷やすい一帯を埋める原生林のほとんどは国有林で、溪谷を埋める秋の紅葉は特に見事である。



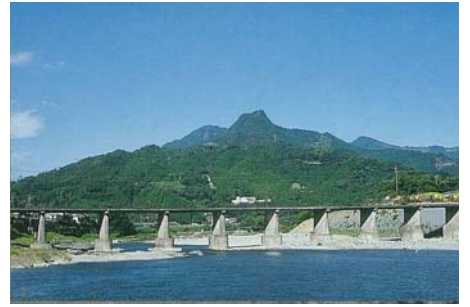
(7) 大樽の滝（越知町）

越知町の南には大樽の滝があり、県の指定名勝になっている。落差は50m、水量は豊富で花崗閃緑岩の急崖をしぶきをあげて落ち、付近にはシルル・二畳・三畳紀の地層や蛇紋岩類などが複雑な構造下に分布し地質学的にも興味を持たれている。



(8) 横倉山（越知町）

仁淀川中流域の顔でもある横倉山（1,073m）は、日本でも最古の地層を持ち、原生林におおわれ、多種の植物が自生している。昔、霊場として栄えたこの山には、安徳天皇を中心とした伝説や史跡、天皇陵墓参考地があり、山全体が幻想的で神秘とロマンに包まれている。



(9) 八田堰

河口から9 km付近に現存する八田堰は、土佐藩の家老、野中兼山（の なかけんざん 1615～1664）によって、慶安元年（1648）から5年がかりで造られた。現在では仁淀川左岸、高岡平野の農地を潤す吾南用水の取水堰となっている。いの町と高知市の境界の山すそ、行当には、かんがい水路トンネルであった切り抜きの記念碑がある。



2.3.2 仁淀川流域の文化、歴史

(1) 池川神楽 (仁淀川町)

池川神楽は仁淀川町の社職阿部家を中心に継承されたもので、詞章も記紀の神話によって脚色されており、服装も雅楽の鳥兜を着用し、近代的に演出された優雅な神楽である。土佐三大神楽に数えられ、1980年に国の重要無形文化財に指定されている。



(2) 太刀踊 (土佐市)

県の無形民俗文化財である太刀踊は、毎年11月2日仁井田神社例祭に奉納されるもので、源平の昔、壇ノ浦を逃れた平家一族が横倉山に住みつき、安徳天皇を慰めるために踊ったのが始まりと言われている。



(3) 梶本神社秋の大祭 (いの町)

梶本神社は、大国主命を主神にまつり、俗に“伊野の大黒さま”の名で親しまれている。社宝の八角形漆塗神輿は国指定の重要文化財である。



(4) 花取り踊り (佐川町)

中世から伝わる太刀踊りの一種で、佐川町指定無形文化財。白倉神社、美都岐神社の2つの神社で開催される。



(5) 清滝寺（土佐市）

四国霊場第35番の札所。八丁坂をのぼると、本堂の前には高さ15mの薬師如来像が鎮座している。現在は厄除け祈願の名所として知られている。



(6) 秋葉まつり（仁淀川町）

仁淀川町で毎年2月11日（建国記念日）に、行われている祭りである。鳥毛ひねりや、中太刀、小太刀その他のはなやかないでたちの若者達総勢200名が、岩屋神社から秋葉神社までの山径を、早朝から夕方にかけてゆっくりと練り歩く、土佐三大祭りの一つとなっている。



図 2-3 景勝地、文化・伝統行事位置図

表 2-6 流域内の国・県指定文化財

有形文化財		無形文化財		記念物		指定区分
名称	所在地	名称	所在地	名称	所在地	指定区分
・八角形漆塗神輿	いの町	・土佐典具帖紙	いの町	・吾北村のヤブツバキ	いの町	県
・八代の舞台	いの町	・清張紙	いの町	・神ノ谷のウエマツソウ、 ホウゴソウソウの自生地	いの町	県
・銅剣・銅戈	いの町	・手漉和紙用具製作	いの町	・縦木山の大スギ	いの町	県
・懸仏の弥陀三尊と銅製狛犬	いの町	・土佐薄様雁皮紙	いの町	・大樽の滝	越知町	県
・三上八幡宮の鉄釣灯籠	いの町	・土佐典具帖紙	いの町	・横倉山	越知町	県
・三社神社の木板彩画懸仏	いの町	・土佐の獅子舞 (津賀之谷獅子舞)	いの町	・不動が岩屋洞窟	佐川町	国
・横倉山修験関係遺品	越知町	・土佐の太刀踊 (佐川町太刀踊)	佐川町	・青源寺庭園	佐川町	県
・木造薬師如来及び両脇侍像	佐川町	・瑞応の盆踊	佐川町	・乗台寺	佐川町	県
・木造阿弥陀如来坐像	佐川町	・土佐の太刀踊 (蓮池太刀踊)	土佐市	・サカワヤスデゴケ	佐川町	県
・木造薬師如来坐像	佐川町	・土佐の太刀踊 (川又花取踊)	仁淀川町	・佐川の大樟	佐川町	県
・木造薬師如来立像	土佐市	・秋葉祭	仁淀川町	・大藪のひがし桜	仁淀川町	県
・木造金剛力士像	土佐市	・秋葉祭の芸能	仁淀川町	・長者の大銀杏	仁淀川町	県
・銅造鏡像・懸仏	土佐市	・池川神楽	仁淀川町	・大引割・小引割	仁淀川町	国
・木造阿弥陀如来坐像	土佐市	・狩山障子紙	仁淀川町	・高岳親王塔	土佐市	県
・金銅荘環頭太刀拵太刀身	日高村	・土佐清帳紙	仁淀川町	・イワガネ自生地	土佐市	県
・木造菩薩面	日高村	・土佐の太刀踊 (神名花採太刀踊)	日高村	・蓮池の樟	土佐市	県
・葛原神社の御正体類	日高村	・川瀬歌舞伎	久万高原町	・甲原松尾山のタチバナ群落	土佐市	県
・小村神社の仁治・貞和の棟札	日高村			・日高村のキンメイモソウソウチク	土佐市	県
・小村神社の蓬萊鏡	日高村			・八釜の甌穴群	日高村	県
・阿弥陀如来懸仏	日高村			・上黒岩岩陰遺跡	久万高原町	国
・旧山中家住宅	日高村			・岩屋	久万高原町	国
・三島神社拝殿	久万高原町			・御三戸嶽	久万高原町	国
・八幡神社本殿・拝殿	久万高原町			・仰西渠	久万高原町	県
・三十三燈台	久万高原町			・古岩屋	久万高原町	国
・鰐口	久万高原町			・菅生山	久万高原町	県
・刀 (銘豫陽大洲臣織簾郷罔良)	久万高原町			・イヨダケの自生地	久万高原町	県
				・カヤの樹叢	久万高原町	県
				・面河溪	久万高原町	国
				・カッラ	久万高原町	県
				・東明神のワコヤマキ	久万高原町	国

出典：高知県・愛媛県教育委員会 (H19. 4. 1)

2.3.3 仁淀川にまつわる洪水遺産

(1) 痕跡の残る床板

日高村本郷父原部落の民家で昭和41年に旧家屋を取り壊したときに、床板の裏面に嘉永二年七月十日夜大洪水があり、家座より壱尺六寸上ると書かれていた。



(2) 大洪水水位標柱 (白高村能津地区)

昭和20年10月に起こった大洪水を後世に伝えるため、日高村能津地区の県道沿い6部落に石柱が設置された(図2-4参照)。



図2-4 昭和20年10月洪水水位標柱位置図

(3) 日高村役場水位標

昭和50年8月洪水では、日高村の平野部のほぼ全域が水没した。日高村役場の前には、人の背丈よりずっと高い位置に当時の水位高(TP+21.20m)を伝える赤線が引かれた看板が立てられ、この災害を忘れることなく後世の人々に伝えられている。



2.3.4 仁淀川沿川の観光、イベント

(1) 伊野桜づつみ

いの町の波川堤防では、桜の咲くころ多くの地域住民が花見等に訪れている。



(2) 紙のこいのぼり

いの町波川の仁淀川橋周辺では、ゴールデンウィーク期間限定で、いの町特産の和紙で作ったこいのぼりを仁淀川に泳がせる行事が行われており、約200匹の大小のこいのぼりが水中を泳いだり会場周辺を空中遊泳している。



(3) 仁淀川まつり

いの町の羽根公園で行われる祭りで、町民が参加し、交流できるイベントとして、300kgの福俵を引っ張りタイムを競う「いの一番福俵レース」をはじめ、「鳴子踊り」等が行われる。また夜には約1000発の花火が打ち上げられる。



(4) 大綱まつり

土佐市高岡町で行われる祭りで、昼間は鳴子踊りや大綱太鼓の演奏が行われ、夕方から夜にかけて、目玉である綱引きが始まる。全長120m、重さ約2 t、胴回り1.8mもある大綱を、力自慢の男たちが東西に分かれて引き合う豪快な祭りである。



(5) わんぱくカーニバル

仁淀川町仁淀地区の長者川^{ちやうじやがわ}で毎年8月に開かれるイベントで、多くの子供たちが参加して、釣り大会やスイカ割りの他、うなぎ、アマゴのつかみどり、宝探し等が催される。



(6) 椿山^{つばやま}太鼓踊り

仁淀川町で行われる椿山の太鼓踊りは、氏仏堂で安徳幼帝の子守歌として、また平家の武将や公達（キンダチ）の霊を慰める祭りとして、毎年古式通りに奉納され、数多くの伝説とともに椿山集落の人々に受け継がれている。



(7) コスモス祭り

越知町仁淀川沿いの「宮の前公園」を主会場に各種イベントが行われる。2haにわたりコスモスが咲き乱れ、多くの観光客で賑わっている。



(8) 小浜^{こはま}キャンプ場

越知町にある小浜キャンプ場は、キャンパー達には有名な場所で、広い河原が人気である。簡易水道、トイレ、炊飯所など、キャンプに必要な設備はひと通り揃っている。



(9) ふれあい菜の花まつり

いの町沖田で毎年1月下旬から2月上旬に行われる。約10万本の菜の花が咲き誇り、見渡す限り黄色いじゅうたんのような景色が見られる。



(10) 茶霧湖まつり

毎年8月16日、大渡ダム近辺の仁淀川町観光センター運動広場において、カラオケ大会や花火大会、サイコロゲームなど多彩な催しが行われる。



(11) 紙の博物館

土佐の伝統工芸品である土佐和紙の歴史は、相当古いものとされている。いの町にある紙の博物館は、土佐観光ルートにも組み込まれている。現在、いの町、土佐市が主力生産地となり、土佐典具紙をはじめとして用途に応じたさまざまな紙が生産されている。



図 2-5 観光、イベント位置図

2.4 自然公園等の指定状況

2.4.1 自然公園及び自然環境保全地域

仁淀川流域内には、山と溪谷の自然美を誇る景勝地が数多くあり、観光地・保養地として多くの利用者で賑わいをみせており、国定公園と県立自然公園がある。これらの自然公園は、優れた自然の風景をできる限り自然のままの姿で保持するとともに、広く一般の人々に保健、休養及び教育等のために利用してもらうことを目的として、「自然公園法」、「愛媛県立自然公園条例」及び「高知県立自然公園条例」に基づき、指定されている。

表 2-7 自然公園等指定地

公園名	指定年月日	面積 (ha)	関係市町村
石鎚国定公園	30. 11. 1	10,932	仁淀川町、久万高原町
皿ヶ嶺連峰県立自然公園	42. 1. 25	3,095	久万高原町
四国カルスト県立自然公園 (愛媛県)	39. 3. 21	5,360	久万高原町
横倉山県立自然公園	31. 1. 17	67	越知町
中津溪谷県立自然公園	33. 3. 28	1,684	仁淀川町
安居溪谷県立自然公園	34. 4. 21	1,287	仁淀川町
四国カルスト県立自然公園 (高知県)	36. 3. 31	1,645	仁淀川町
工石山陣ヶ森県立自然公園	49. 6. 10	2,314.9	いの町

えひめ自然環境情報図 (平成 8 年)、高知県自然公園等位置図 (平成 12 年)

2.4.2 鳥獣保護区

仁淀川流域には、国設鳥獣保護区が石鎚山系の 1 箇所指定されており、県設鳥獣保護区が 19 箇所指定されている。

表 2-8 仁淀川流域鳥獣保護区

No.	名称	面積 (ha)	No.	名称	面積 (ha)
①	石鎚山系	10,858 (802)	⑪	面河第三ダム	52
②	笠方	600	⑫	猪伏	832
③	皿ヶ峰三坂峠	540	⑬	四国カルスト	227
④	岩屋寺	400 (50)	⑭	別枝	897
⑤	大宝寺	10	⑮	安居	144
⑥	笛ヶ滝	96	⑯	高樽	217
⑦	芋坂	360 (50)	⑰	横倉	146 (46)
⑧	亀谷	231 (40)	⑱	佐川町西組	55
⑨	小田深山	1,421	⑲	程野	273
⑩	西谷	10	⑳	伊野	560

※ () は当該鳥獣保護区域に含まれる特別保護地区面積

出典：愛媛・高知県鳥獣保護区等位置図 (平成 16 年度)

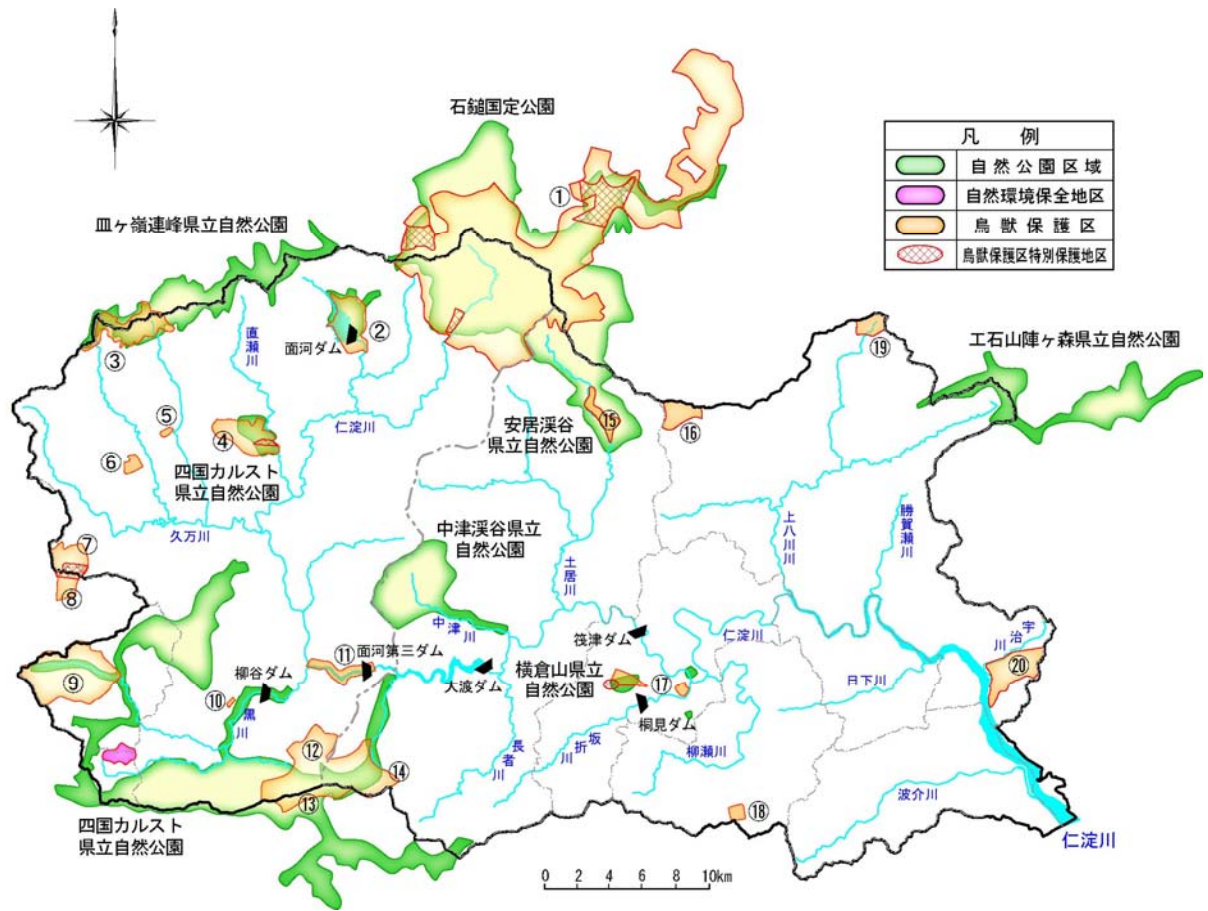


図 2-6 国立及び県立公園、鳥獣保護区等位置図